

# 落語を取り入れた授業の効果

## ーインタラクティブな関係性を目指した取り組みー

M14EP002

小田 雄仁

### 1. 問題

授業で何度も説明した内容が、いざテストになるとできていなかったという経験を多くの教師がしているのではないだろうか。そのことについて先輩教師から、10回説明しないと伝わらないよというアドバイスを受けたことがある。10回は大袈裟であろうが、基本知識の定着率を上げることは誰しもが課題と感じているのではないだろうか。この知識の定着率の低さの原因は、文部科学大臣から中央教育審議会に諮問がなされたように青少年の意欲の低下(中央教育審議会, 2005)によるものだろうか。また、分からないにもかかわらず生徒が質問に来ないことも、意欲の低下に起因するのだろうか。

確かに意欲低下もあるだろうが、しかし一方で、普段の授業の中でも、生徒が顔を挙げて楽しそうに教師の話を聞いている場面もないわけではない。例えば、筆者がヨーロッパでバックパッカーをしていたときの奇跡体験をもとに一期一会の大切さを伝えた話をしたときは、学習内容とは全く関係のない雑談ではあるが、生徒の興味・関心を強く引き付けられたと思っている。3年前に卒業した生徒が、たまたま学校を訪ねた際にも、授業内での雑談の思い出話で会話が弾んだことから、雑談をうまく授業に取り入れることは生徒の授業への関心を引き出すことに効果があると推測できる。

このような経験から、雑談や、学習内容に関する教科書を逸脱した話を授業の中に取り入れる機会をなるべく多くしていたが、それ

は、その行為によって生徒の学習意欲が高められる手応えを感じていたからでもある。笑いやユーモアを交えて授業をすることは、そうでないときと比べて、生徒の顔が上がる、問題演習に積極的に取り組む等、明らかに授業に対する姿勢が活性化されているという手応えがある。

このことに関する先行研究として、榊原ら(2004)は、笑いを教育に取り入れることで学習への内発的動機を引き起こしうると述べるとともに、教育における笑いやユーモアの重要性を述べている。学習内容がより難しくかつ膨大である高校では、各教科に苦手意識を持っている生徒も一定数おり、高校の授業でこそ、笑いやユーモアは必要とされているはずである。しかし、それらの具体的な活用や効果についての研究の多くが小学校や中学校を対象としたものであり(上條, 2005)、高校を対象とした研究はあまり見られない。榊原ら(2004)は、今後の課題の1つとして、学習活動に効果のある笑いの検討を挙げているが、本研究は、高校におけるその対応策の1つとして「落語教授法」を提案する。

本論文が提案する「落語教授法」は、授業に関連した落語を授業者が自作し実演するというものであり、落語という笑いの要素と学習の要素の両方を含んでいるので、先の雑談のように記憶の定着に影響することが予想される。さらにリフレッシュ効果や、雑談の要素があるために松原(2005)が述べるような、「生徒との関係性・信頼感の構築」「生徒の成長・変容促進」などのポジティブな影響、

さらには学習内容とも関連があるために知的好奇心も刺激する等の複数の効果が予想される。さらに、筆者が予想した効果以外にも様々な効果の手応えを感じており、それらを明確にするために探索的に検討した。

授業内で実施する落語を「創作授業中落語」と呼び、その授業時間の通常授業と合わせ1時間のパッケージとしたものを「落語教授法」と定義した。また、「創作授業中落語」の定義は以下の定義1～3とした。

**定義1** 最後にオチをもつ物語を教師1人で語る落語の形式であること

**定義2** 授業者への負担になりすぎないために、また授業本題の時間を割きすぎないために、5分程度であること

**定義3** 授業内容に関連があること

「創作授業中落語」の一例（概要）を以下に示す。この授業の学習内容は免疫記憶細胞の二次応答に関するものであり、その部分の学習に先立って「創作授業中落語」を実施した。内容は、免疫を治療に応用した事例としてのハブに咬まれた場合の血清の作成方法や効果等で2次応答のメカニズムの概略に触れたものである。

-----  
**(マクラ)** 沖縄には様々な見どころがありますが、毒蛇のハブには気をつけてください  
(注：2年生が修学旅行に行く時期に実施した)。**(本題)** 修学旅行から帰ってきた弟は、姉に沖縄で担任の教師がハブにかまれて大変だったと、その時の状況や、ヘビを取ってくれという教師に対して写真を撮るのかと勘違いして怒られてしまったことなどを伝える。

(沖縄の場面になる)ヘビに襲われた時、助けようとしなかったことを怒る教師をなだめようと、弟は教師に代わって保健所に電話をかける。その電話の中で、血清の作成方法や効果等について話すが、電話が長すぎたために、教師は毒が回って気を失ってしまう。結局、弟がタクシーで教師を病院に運び、事な

きを得た。教師は、搬送先の病院で意気投合した看護師とお付き合いすることになる。

**(オチ)** ハブに噛まれたことが縁で、お付き合いの相手ができ、教師にとっても良い日が来そうだね、Have (ハブ) a nice day. と姉が言う。

-----  
なお、以後の「創作授業中落語」はすべて落語と表記する。

## 2. 方法

対象校：A 県内公立 B 高等学校

対象生徒：1 年全 6 クラス (241 名)

期間：平成 27 年 5 月～12 月

手続き：1 年生の「生物基礎」の授業の中で、各クラスで 13～14 回、落語教授法を実施した。演じた落語はすべて Word ファイル、音声データに残した。データの収集は、アンケートとフィールドメモによった。

### (1) アンケート

アンケートは、6 月、9 月、11 月の定期テストの解答用紙に自由記述欄を設けて実施した。

表1 3回のアンケート概要

	質問内容 (アンケートまでに落語を聞いた延べ回数)	回答者数
6月	落語教授法の効果について (1～2回)	147人
9月	落語教授法の効果について (6～7回)	128人
11月	落語教授法を実施しない1ヶ月間に感じた変化について (11～12回)	112人

実施回数に差があるのは、アンケート実施時における授業の進度に違いが生じたためである。また、6 月と 9 月ではアンケートの質問内容は同じだが、質問文を多少変えた。これは同じ質問によって記述の変化を追うよりも、生徒の実態・ニーズを把握し、学びをサポートするために、より生徒の実態に即した質問をするべきと判断したからである。さらに 11 月のアンケートでは、質問の内容を大幅に変更したが、これも同様の理由によるものである。この研究では、紙幅の関係で 9 月のアンケートの結果を中心に考察した。9 月の

結果を中心に用いた理由は、開始してから5か月が経ち生徒も落語教授法がどのようなものか、ある程度理解した様子が見られたことと、回答数や記述量が3回のアンケートの中で一番多かったので、研究の目的である効果の検討にもっとも適していると判断したためである。なお、9月のアンケート質問文は以下の通りである。

「時間に余裕がありましたら以下のアンケートを書いてください。筆者の授業では、今年度、落語を取り入れています。落語を取り入れることで授業・学習全般に何か変化を感じるようなことはありますか。もしありましたら、できるだけ具体的に教えてください。浮かばない場合は、落語の効果や感想(肯定・否定)でも構いません。」

## (2) フィールドメモ

授業の外で筆者が感じたこと、および参観者等から言われたことで、落語教授法に関わる事柄を中心にノートに記録したものである。これ以降“アンケートより”と断りがない記述はすべてフィールドメモによるものである。

## 3. 結果と考察

### (1) 落語教授法の効果

#### ① 多岐にわたる落語教授法の効果

生徒Aがアンケートに書いた記述を具体例として以下に示す。なお、下線部は、筆者が効果として読み取った部分である。また、本文中の**明朝体太字部分**は生徒の記述や発言を表している。

生徒A：私の感想ですが、私は難しい授業をしている中で落語が入ると、面白いから息抜きになって、リフレッシュできる気がします。それに、クラスの雰囲気も明るくなるような気がしました。こういったことをすれば**教師と生徒の壁もなくなって**いって、**問題(質問したいが、あの教師あんま話してこないし、どんな人なんだか等)が消えていき、学力が上がっていくのでは?**と思いました。

このように複数の効果や、授業者への激励も記述の中には含まれていた。これらのアンケートの記述から効果に該当する部分を抽出し、カテゴリ分類したものが表2である。

表2を見ると多様な効果があるように感じられるが、生徒ひとりひとりがこれらの効

表2 9月のアンケート結果

	大カテゴリー	カテゴリー	記述例
1	理解を助ける	理解が深まる	その日の授業で習ったものと並列しているから、理解が深まるし/生物の内容を考えながら聞けるので、
		理解しやすくなる	分かりにくい部分を普段と生活と交えてあるから想像しやすくなる
2	覚えやすくなる・思い出しやすい	印象に残る	自習や今日のテストなどでも印象深く残っている
		覚えられる	生物に出てくる言葉を楽しみ、そして簡単に覚えらえる。
		思い出しやすい	テストのときとかに落語を思い出したりすると内容が少し思い出せたりする。
		自主学習時に思い出せる	問題をやりたりしても、あ、先生が落語で言っていたなあとか思います。
3	意欲が高まる	興味関心がわく	落語をしてくれることで、その事に関して関心がわく
		授業に意欲的に取り組める	落語を楽しみにするために生物の授業に意欲的に取り組むことができます。
		授業に対する意識が高まる	私だけでなく、みんなの生物の授業に対する意識が高まっていると思います。
4	次の授業が楽しみになる	次の授業が楽しみ	落語があるからこそ、生物が楽しみになります。
5	気分転換・リフレッシュ	気分転換・リフレッシュ	眠くても落語がはじまると目覚めます。
		休憩	少し疲れたときに休憩できてその後頑張れます。
6	勉強のイメージを変える	授業が楽しくなる 楽しみながら学べる	授業が楽しく感じます。 とても面白く生物の知識がつかます。
7	授業の雰囲気を変える	授業の雰囲気が変わる	授業全体が、明るく楽しくなったと感じました。
		クラスの雰囲気を変える	クラス全体が集中してないという時の落語は効果抜群じゃないでしょうか。
		メリハリがつく	笑う時は笑って、問題を解くときは解いてなど、充実して
		難しいイメージを和らげる	生物の“難しい”というイメージを和らげて
8	落語が面白い	面白い	落語が面白いので
		落語が楽しい	落語を聞くのはとても楽しい
		落語が腑に落ちる	いつも「なるほど〜!」ってなります。
9	その他	その他	落語があると1週間頑張れます。/落語がることによって一度落ち着いて考える事ができるので/難しい用語の事でも落語を聞いていると身近に感じた。

果すべてを感じているのではなく、学習面で効果を感じる生徒、クラスの人間関係への効

果を感じる生徒など、生徒が感じる効果は多岐に渡っている。その多岐にわたる原因として、問題演習等であれば手が止まっている生徒には声をかけたりするが、落語は聞き手が各々好きなように気楽に聞くのが本来の姿であるので鑑賞する上での留意点等は一切伝えていないということ、また、それぞれの落語によって込めた意味も様々であるということの2点がまず考えられる。

このように落語教授法の効果は多岐にわたるのだが、昨年度の筆者の研究によると、落語そのものには少なくとも表2の「1. 理解を助ける」「2. 覚えやすくなる・思い出しやすくなる」「5. 気分転換・リフレッシュ」「8. 落語が面白い」の効果があることが述べられている(小田, 2015)。そして、今年度、落語がある授業(落語教授法)の効果について探索的に検討する中でその効果を9つの大カテゴリーに分類した。

落語教授法は、単に落語を聞いて学ぶというものではない。落語を理解したり可笑しさを笑ったりするためには、その前段階にある説明を正確に理解している必要がある。落語の中の不全感は、その後の補足説明で解消される。また、落語でリフレッシュしたからその後の問題演習を充実した気力のもとで取り組むことができる等、授業内の各パーツ(問題演習/教科書の説明/板書/雑談)が落語を核として有機的に結び付くことで、生徒の学びがより深まるようにすることが落語教授法の狙いである。その狙い通りの落語教授法が展開できたときには、「1. 理解を助ける」「2. 覚えやすくなる・思い出しやすくなる」に分類されるような効果が出てくるのだと考えている。

10月頃、自転車で転んで膝に包帯を巻いていた生徒Bとその事故について話をしている際に「シンピが見えました。」という言葉が出てきた。これは、筆者が5月で使った落語の登場人物のセリフで「真皮」と「神秘」を

掛けたものであり、その場に居合わせた生徒たちもそのセリフを聞いて笑っていた。このように数カ月前の学習内容を会話の中に織り交ぜられることを落語教授法の効果と捉え、表2のどのカテゴリーに分類されるかと考えると「1. 理解を助ける」「2. 覚えやすくなる・思い出しやすくなる」となるのかもしれないが、それ以外にも、この出来事があったからこそ気づいた効果、例えば「日常生活の中に落語を取り入れて楽しめる」のような効果もあるように思える。カテゴリー分類では記述としての出現頻度が低いために「9. その他」に分類されてしまうような、日常生活に落語の一場面がふと思い出されたときに気づける効果も落語教授法にはある。生徒Bのように落語を日常生活に取り入れる生徒、気分転換のために聞く生徒等、落語との関わり方の違いも、生徒が感じる効果が多岐にわたることに起因しているのではないだろうか。

## ②インタラクティブな関係性への効果

落語教授法を研究対象とする中で「5. 勉強のイメージを変える」「7. 授業の雰囲気を変える」は、筆者が特に注目している部分である。生徒Aの記述に「問題(質問したいが、あの教師あんま話してこないし、どんな人なんだか等)が消えて」とあったように、教師に対して話しかけにくいというイメージを持っている生徒は確かにいる。しかし、落語教授法には、それを崩す効果があることが生徒Aのような記述からも推測できる。

以下は、関係性の変化について参観者から指摘された内容からの考察である。落語をするだけでなく、上手く落語が作れずに苦しんでいたたり、落語中に話を忘れて冷や汗をかくなど四苦八苦したりする教師の様子が、「教える-教えられる」「叱る-叱られる」といった教師と生徒の一方的な関係性を崩し、「励ます-励まされる」「期待を伝える-頑張りますと応える」等の生徒から教師への関係性を生み出している。つまり、授業者が落語をす

ることによって、教師から生徒への一方的な関係性から、教師生徒の相互作用がある（インタラクティブな）関係性になっていき、さらにその関係性が深められている。通常の授業では教師は学習内容の伝達者であり、グループ活動等においても教師はファシリテーターとして、生徒に対して一方通行の関係性が変わることはあまり見られない。しかし、落語教授法は、通常の教師の働きかけと違い、生徒とのインタラクティブな関係性を深める効果があるということが、落語教授法の特異な部分と考えられる。

この指摘を受けて、筆者が学校現場で感じる教育実践のコツとつながったので、紹介する。学園祭の準備や球技大会等の学校行事では、指示をだす教師のような関わり方ではなく、生徒が1人増えたように手が足りていない部分にサポートして入るような関わりをした方が人間関係の構築に効果が大きいと感じ実践している教師も多いと思う。このことを参観者からの指摘を元に考察すると、学園祭では「もっと丁寧に切ってください」「そこは違います。先生ちゃんと話を聞いてください」といった生徒から教師への指示が出されるような場面が生じるし、球技大会では、例えば教員チームと生徒との対戦では対等な真剣勝負ができた、教師がクラスのチームとして参加する場合には、教師と生徒が互いのミスをフォローしあう等、通常の学校生活では生じにくい関係性が生じる。筆者が普段感じていた、学校行事に生徒と同じ目線で参加することが普段の学校生活を円滑にすることにつながるということは、まさにこのインタラクティブな関係性を深める作用があるからではないだろうか。そして限られた時期にしかない学校行事と違って、落語教授法は普段の授業内において、そのような関係性を構築する機会をつくることのできるというのが落語教授法の特異な部分ではないだろうか。

この参観者の指摘のように、関係性の変化

はアンケートに書かれた激励のメッセージからも読みとれる。

**生徒C：授業の内容と関係している落語だから良いと思う。落語を聞きながら、ついさっきやった内容を復習できる。落語のおかげで印象づけられるので覚えやすいと思う。これからも面白い落語よろしくお願いします！**

最後の一文の激励は、アンケートに答えるだけでなくてもいい内容であるが、それをわざわざ書いてきたことから、インタラクティブな関係性の高まりを感じることができ

さらに落語教授法を取り入れる2年前と比べて、生徒がよく質問をしに来るようになったという変化も見られる。同一校ではあるが生徒が違うので単純に比較はできないが、それを加味しても、筆者が授業中に質問を受ける回数は明らかに増加している。表2の「3. 意欲が高まる」「4. 次の授業が楽しみになる」と、このインタラクティブな関係性が高まるのが相まって、生徒はより気軽に教師に質問をするようになっていたのではないだろうか。

### ③ポジティブな効果がみられないケース

11月のアンケートでは、10月中旬から落語教授法を実施できない期間が1ヶ月弱あったことから、落語の有無による変化を生徒がどう感じたかを質問した。それに対して、落語教授法に表2にあるような効果があることを再認識したと回答した生徒がいた一方で、10名程度が「落語がなくても学習に違いは感じなかったが、落語がなくて寂しかったです。落語頑張ってください」のような記述をしてきた。落語教授法には様々な効果があるが、それらは、学力に大きく影響を及ぼすほどではないのかもしれない。同じく11月のアンケートで以下のように回答した生徒もいた。

**生徒D：最近落語がおもしろくて楽しいです。生物の授業は好きな授業ランキング上位**

入賞しています。でも毎度毎度このような点数をとって平均点を下げてしまい申し訳ございません。

この生徒Dは3回のテストが3回とも下位層であったが、それでも授業は比較的好きだと回答している。別の言い方をすれば、落語教授法が意欲に作用しているが、学力に強く効果を出しているかは現時点では確認できないということである。しかし、それでも落語教授法によって学習に動機づけられており、次のテストでは、学力が伸びてくることや、テスト前に質問に来る可能性があることを示唆している。

生徒A～Dのように、落語教授法を好意的に受け止めている生徒の存在はフィールドメモからも読み取れる。例えば、落語が始まると、ノートを書く手を止めて体を授業者に向けたり、姿勢を直したりする生徒がいる。落語中は何人かの生徒と目が合う。落語後も説明中に目があう生徒がいたり、問題演習に熱心に取り組む様子が見られたりするの、落語をきっかけに学習への意欲が高められたためと筆者は解釈している。

一方で、すべての生徒が落語教授法を好意的に受けとめているわけではない。授業者が「では、落語をします」と言うと、決まって下を向く生徒が複数いる。その中の1人は9月のアンケートに「落語が頭に残っていい面もあるけれど、その時間で問題演習を解きたい」と記述してきて、落語に対して暗に拒否を示してきた。また、別の生徒は落語教授法を始めた5月頃から落語中はほぼ毎回、机に顔を突っ伏したり、顔を手で覆ったりなどしていた。このような生徒にとって落語教授法がポジティブな効果があるとはいえない。しかし、彼らはその落語以外の時間は他の生徒と遜色なく授業に臨んでいたり、休み時間に廊下で筆者とすれ違う際にも挨拶を交わしていたりするなどの様子が見られることから、授業者に対して否定的な態度をとっているの

ではなく、落語のその時間にだけ、そのような姿勢をとっているのである。このように否定的な生徒が一定数いることも確かだが、生徒Dのように勉強は得意ではないが落語教授法が琴線に触れるような生徒がいることも事実である。生徒は多様であり、授業に求めるものや動機づけられるきっかけ等、すべての生徒に合致するような方法はない。そのとき大多数の生徒のニーズに合う方法、例えば進学校なら受験を意識した展開だけを選択してしまうと、それでは動機づけられない生徒は取り残されてしまうことになる。そうではなく教師は大多数の生徒のニーズを意識しながらも、それでは動機づけられない生徒がいることも頭の片隅に置き、すべての生徒の学習動機にはたらきかけられるように授業のレパートリーを多く持つべきであり、筆者の場合は落語教授法がその選択肢の1つとなっていると捉えている。

#### ④落語教授法の効果の総括

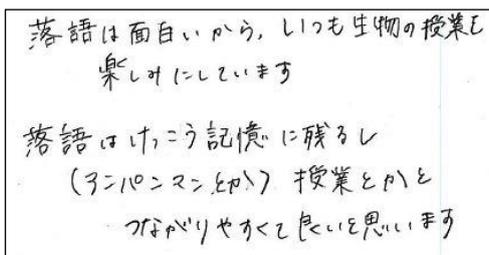
笑いを言葉で伝えようとしても、その面白さが伝わりにくいように、落語教授法の魅力も本論文が伝えきれたとは到底思えない。ただ、ひとつだけその魅力を伝えるとするならば、落語という笑いをベースにしていることから、学習を得意としない生徒にも効果がある可能性を有しているということを挙げたい。その一点だけでも十分魅力のある教材ではないだろうか。一方で、落語を実践することはそれなりの技術が求められることも確かである。しかし、筆者もこの研究を始める2年前までは落語をしたことなど一度もない素人であり、そして、もちろんいまだに素人であるので、落語中にセリフが飛ぶ等のトラブルもそれなりに起こる。それでもこの落語教授法に魅かれ継続しているのは、試行錯誤する姿も含めて落語教授法だからであり、インタラクティブな関係性を深めることで、生徒のちょっとした躓きを敏感に感知することに繋ができ、困ったら困ったと、分からないな

ら分からないと気軽に言える授業につながり、そして生徒の学習意欲向上にも繋がっていくと考えるからである。

このような落語教授法の効果に興味を持たれた方は、ぜひ自分なりに挑戦していただきたい。きっとその人自身の良さを活かすような落語教授法となるはずである。またその際に、落語そのものを作ることが一番の負担となるのだが、その負担を少しでも軽減できればと思い、筆者が今までの落語作りで蓄積したノウハウを以下に述べる。

## (2) 効果を実現させる落語教授法の在り方

落語の効果を尋ねているアンケートであるが、その中には、以下のように印象に残った落語についての記述もある。



落語は面白いから、いつも生物の授業に  
楽しんでいます  
落語はけいこう記憶に残るレ  
(アンパンマンとか) 授業とかと  
つなげやすくて良いと思います

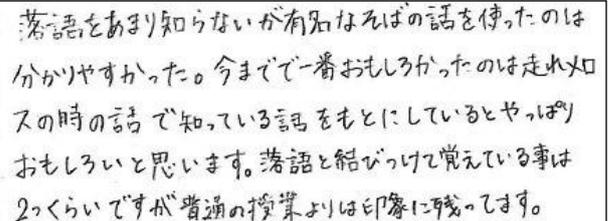
### 図1 生徒Eの記述

このようにアンケートの中に印象に残った落語として記述がある話の共通点は笑いが大きかったことである。落語の良し悪しはもちろん笑いだけではないが、授業に笑いやユーモアを取り入れる手段として落語を選択したことから、落語の質の基準として、「意図した箇所ですぐ笑いが起きるか」を筆者は重視している。また、「組み入れた学習要素が狙い通りに学習促進となっているか」も落語の質を考える基準となりえる。生徒の反応や授業者の手応えを元に、理想とする落語教授法の条件や落語の作り方を検討した。

#### ①登場するキャラクター

授業者は、落語の素人であり、かつ落語は5分程度しかやらないために、どうしても話が伝わりにくいという欠点を含んでいる。これを少しでも軽減するために、アンパンマン

やドラえもんなどの生徒が既知のキャラクターを用いることは、落語の場面を想像するのを容易にするという意味でも有効である。



落語をあまり知らないが有名な話の話を聞いたのは  
分かりやすかった。今までで一番おもしろかったのは走れメ  
ロスの時の話で知っている話をもとにしているとやっぱり  
おもしろいと思います。落語と結びつけて覚えている事は  
2つくらいですが普通の授業よりは印象に残っています。

### 図2 生徒Fの記述

図1にはアンパンマン、図2には走れメロスに関する記述があるが、落語から数カ月後のアンケートにこのような記述があることから、強く印象に残っていると考えられ、場面設定が既知ということが印象に残るためには有効であることが分かる。また、オリジナルの設定であっても、同一のキャラクターを繰り返し使うことで、既知の知識とすることができる。さらに、より既知の存在とするために、授業通信（学習内容や落語に関する記事の配布資料）などでキャラクター紹介を行ったことも有効であったと考えている。

#### ②キャラクターの性格

笑いは、筆者が目指す落語の条件の1つであるが、笑いを引き起こす落語を作るための1つの着眼点として、生徒が想像したキャラクターと落語の中でのそれがズレているというのがある。例えば、図1に記述されているアンパンマンは、正義の味方なのに人助けを面倒くさがったり、図2の「走れメロス」では生物の知識に詳しい暴君ネロが登場したり、他にも自分勝手なドラえもんが出てきたりすることは、既知とのズレであり、そのような性格のキャラクターを登場させることで笑いを引き出すことができる。

#### ③学習要素の入れ方

物語作成時の学習要素の入れ方は、「神秘が見える（「真皮」と意味を重ねている）」のように登場人物にその用語を使わせるのが一番簡単であるが、可能ならば、よりインパ

クトを残すために、インパクトのあるフレーズで言う／インパクトのある場面で言うといった使い方をしたい。他には、キャラクターと生物事象がパラレル（マクロファージと八さん、抗体と手袋など）にすることで、落語終了後に、「今の落語は、登場人物と生物の授業内容が、それぞれ対応させていたのだけど、ちょっと確認するよ」と落語を思い出しながら、知識の定着を図ることができる。また、今年度は一度も作成できなかったが、生物用語の誤解から来るドタバタ劇などは、生徒は正しい知識を持っているゆえに「そこは違うのに」と思いながら聞いて笑える話とすることができるはずである。

#### ④落語を入れるタイミング

落語をするタイミングとして、導入か復習が考えられるが、導入使う場合は、内容が未知なために、概要を伝える程度しか学習内容を取り入れられない。一方で復習として使う場合は、学習単語等を上記③のように様々な使い方ができるので、導入よりも学習要素を取り入れやすいという利点がある。同時に気分転換・リフレッシュも狙いの1つであるので、少し疲れが見え始めた頃に、それまでの学習内容の復習として落語を使うことが今年度は多かった。

#### 4. 総合考察

落語教授法の効果は、教材としての効果と、インタラクティブな関係性への効果の2つの側面がある。そして、この2つが相乗効果を生むことが落語教授法の特徴である。これが、質問をしやすい教師像にもつながっていく。質問をすることは、その生徒自身の学びに寄与するだけでなく、生徒がどこで躓くかを知る機会を教師に与え授業改善につながっていく。また、教師に質問をすることで学びが深まれば他教科の教師にも質問をするようになったる等インタラクティブな関係性が波及する可能性もある。さらに、学習以外の

学校生活にも好影響を与えていくことも考えられる。例えば、教師が知らないところでクラスに何か問題が起こっているときにも、生徒がいち早くそれを伝えてきて、早期解決につながる可能性もある。教師と生徒の信頼関係の構築は学校現場において必須であるが、そこに寄与できるということも落語教授法の魅力ではないだろうか。

落語が技術に裏付けられたものであることは疑いの余地がなく、落語教授法が授業者の落語の技術に依存することは否めない。しかし一方で、上手ではないが一生懸命落語で伝えようとする教師の姿に、一定の効果があることも確かである。本研究は、学習内容に関係した落語が授業にもたらす多様な効果を示すことで、学習意欲の低下に起因するような事象に対する教師の働きかけを問い直す契機を提供できたと考える。

#### 5. 引用文献

- 上條晴夫. (2005). お笑いの世界に学ぶ教師の話術 子どものコミュニケーションの力を10倍高めるために. たんぽぽ出版.
- 松原志保. (2005). 教師による授業中の雑談がもつ教育的機能. 日本教育心理学会総会発表論文集, 47, 296.
- 小田雄仁. (2015). 落語を取り入れた授業の効果に関する一考察. 平成26年度山梨大学教職大学院教育実践研究報告書, 89-96.
- 榎原禎宏ほか. (2004). 教室における笑いの可能性. 山梨大学教育人間科学部紀要, 6, 134-150.
- 中央教育審議会. (2005). 「新しい時代を切り拓く生涯学習の振興方策について」「青少年の意欲を高め、心と体の相伴った成長を促す方策について」(文部科学大臣諮問理由説明).